



栃木県栃木警察署交通総務課企画係長
栃木県警部補
交通天使

おおも しんや
大友 伸也 さん

市民に交通安全のメッセージを届ける「交通安全天使」として、交通安全講話など啓発活動に従事する大友伸也警部補にお話を伺いました。

その名も「交通安全天使」
交通安全講話4年目の大友さんは、『交通安全講話』やケーブルテレビの『交通安全の啓発活動』への出演を通して、交通安全の啓発活動が続けてきました。しかし「堅いイメージの警察官が当たり前のことを言っても、市民の皆さんに興味を持ってもらえない」と考え、辿り着いたのは、『交通安全天使』でした。制服の背中に天使の羽、頭上に天使の輪、左胸には交通安全天使の名札という印象的なスタイル。『一時停止ビーム』『シートベルト着用ビーム』『様々なビームを駆使し、交通安全を訴えます。』もともとはケーブルテレビの番組で生まれたキャラクターで、多くの人の目に留まるようにと思って考えました。上司や署長に提案したところ、快諾され、実現できました。と笑顔で語ります。衣装は全て手作り。娘さんと一緒にYouTubeの動画を参考に製作したそうです。

交通安全のためなんでも
交通安全の啓発活動は、効果が見えにくく、なかなか成果を実感できないものです。大友さんは「大友警部補として、街頭で広報活動をしているときに、『交通安全天使さんですよ』というように声をかけられることがあります。交通安全としての活動によって、興味を持ってもらえたという事が分かり、やって良かったという実感が湧いてきます。」と嬉しそうに話します。
天使はいつでも現れる！
年末の交通安全県民総ぐるみ運動を控え、年内にも交通安全講話の依頼が入っていると話す大友さん。今後の交通安全天使の活動について尋ねると、「要望があればどこにでも行きます。いずれ私が別の部署に異動になっても、別の天使が現れてくれると信じています。」と語ってくれました。交通安全講話をご希望の方は、ぜひ栃木警察署交通総務課まで(☎0282(25)0110)



「古今亭志ん丸」栃木市ふるさと大使就任記念寄席

栃木市ふるさと大使三人会

春風亭柳橋

古今亭志ん丸

桂小南

古今亭志ん丸氏のふるさと大使就任を記念して、すでにふるさと大使に就任している春風亭柳橋・桂小南両師匠との「栃木市ふるさと大使三人会」を開催します。

日時 2月1日(土) 13時開場 13時30分開演
場所 とちぎ岩下の新生姜ホール(栃木文化会館/旭町)小ホール
費用 無料 定員 350人(先着順、1申込2人まで)
申込 1月15日(水)~24日(金)下記のどちらかの方法で申込
・広報課窓口にて9時から受付
・市ホームページの電子申請システムにて12時から受付
※詳細は市ホームページをご覧ください。
問 広報課 ☎(21)2315

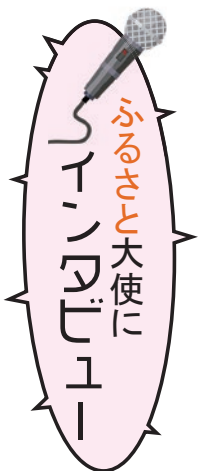


プロフィール
1994年に6代目古今亭志ん丸に弟子入りし、2008年に3代目古今亭志ん丸を襲名
1997年以降、栃木市で高座に上がり、栃木市の魅力を熟知



落語家(真打)
古今亭志ん丸さん

さまざまな分野で活躍し、本市の魅力を全国に発信する「栃木市ふるさと大使」。先日、大使に就任したこの方を紹介します。



「栃木市での思い出を教えてください」
アタシがはじめて噺家として栃木市を訪れたのは「栃木落語の会」主催の大町公民館の「大町寄席」でした。今から30年ほど前になるでしょうか。随分と時代が付いた公民館でしたが(笑)
今は立派な建物になってビックリしています。以来、ちよくちよく市内各所で落語でお世話になってます。有難いですね。

「これからの栃木市になにを期待しますか」

全国を回っていて思うのですが、東京から遠いと地元の文化、風習、風俗、言葉など、ちゃんと残っていて大切にしている。ところが東京に近いと段々と東京に染まってしまつて、どこでも同じ町の風景になってしまふ。

栃木市にはたくさんの誇るべき文化、建物、風習があるので、これからも大事に守り育ててもらいたいと思います。

「今後の抱負について教えてください」

噺家はお喋りしかできませんが、それで全国に向かって栃木市の様々なことをアピールするお手伝いを全力でやらせていただきます！

薦重・歌麿そして栃木 その2

いよいよ1月5日より、2025年 NHK 大河ドラマ「べらぼう〜薦重栄華乃夢 断〜」の放映が開始されます。歌麿がいつ登場してくるのか。はたして栃木と歌麿の関係が描かれることはあるのか。期待は尽きません。

11月号に引き続き、今回は薦重・歌麿と栃木を結びつける作品を1つご紹介します。それは寛政5年(1793)、「寛政の改革」の最中に出版された全8図からなる作品群で、歌麿が絵を描き薦屋重三郎が発行したものです。吉原の花魁を中心に、お付きの新造・禿などを配置し、短冊形枠に狂歌が記されています。賛を寄せる狂歌師をみると「栃木通用徳成」が2首、「栃木川岸松蔭」が1首、さらに下毛の狂歌師として知られている「酒桶数有」が1首。全図の半数が栃木関係の狂歌師となっています。特に「通用徳成」は、こののち歌麿の肉筆画である「杭打ち図」や「三味線を弾く美人図」に登場する4代目善野喜兵衛で、歌麿と極めて近い関係にあった人物として知られています。

このシリーズが描かれた前々年、薦屋重三郎は山東京伝の著作が禁令に触れ、処罰されたことに連座して罰金刑を受けることとなりました。歌麿とともにこの危機を乗り越えようとした薦重。そんな時期に、栃木の狂歌師(町人)たちが、資金を出して歌麿に作成を依頼し、薦重を支援した。その様にも解釈できる作品群ともいえます。そして、この後すぐに、薦重と歌麿は美人画大首絵を開発することにより、見事に復活していきます。

このシリーズが描かれた前々年、薦屋重三郎は山東京伝の著作が禁令に触れ、処罰されたことに連座して罰金刑を受けることとなりました。歌麿とともにこの危機を乗り越えようとした薦重。そんな時期に、栃木の狂歌師(町人)たちが、資金を出して歌麿に作成を依頼し、薦重を支援した。その様にも解釈できる作品群ともいえます。そして、この後すぐに、薦重と歌麿は美人画大首絵を開発することにより、見事に復活していきます。

☎ 歌麿を活かしたまちづくり協議会事務局(蔵の街課内) ☎(21)2573

※本協議会は、当時の吉原の制度を容認または美化する意図は一切ありません。テーマの趣旨を説明するために美術作品として、取り上げています。



▲喜多川歌麿 薦屋内花扇 寛政5年(1793) 太田記念美術館蔵